

“Take Time by the Forelock”—化学教育の発展をめざして—

20世紀は戦争の世紀といわれ、「21世紀は平和の世紀に—」と誰もが願って出発した。しかし残念なことに、2001年も9月11日に始まったアメリカ合衆国同時多発テロとその後の報復爆撃によって、戦争と混乱はまだまだ続く様相である。また、日本経済も不景気の嵐はなりやまず、リストラと倒産の悲劇は解消の兆しさえ見られない。そのような情勢の中で日本の科学技術にとって、名古屋大学の野依教授のノーベル化学賞受賞は、白川筑波大学名誉教授に続く2年連続の明るい未来を予想されるべきことである。

学校教育の中で、公害、大気汚染、オゾン層破壊、地球温暖化などと、化学はとかく暗く汚いイメージが先行されやすかった。そのような状況では、純粋に化学を学びたいという中高生は減り、化学は好きだが資格の取れる医学や薬学の方が得と考える風潮が目立ってきたと思われる。資源の乏しい日本にとって、科学技術の発展は必要不可欠であり、それらを担うのは、現在の中高生を含め若者達である。したがって、的確な知識と創造力を持った若者が育ち、発展のために知恵をしばり、はつらつと活躍するためには、初中等の理科教育（科学教育）が大切であることは自明の理である。とりわけ理科教育の中でも、化学教育は環境問題の解決のみならず、資源やエネルギーなどの問題を科学的に考える際の基礎となり、施設・機材などハードと教材や教育方法などソフトの両面が充実することも大切である。

これらの現状を知り、化学教育の拡充を実現可能とするためにも化学教育協議会の発展が重要である。この点においても、ノーベル賞を受賞された両先生は、折に触れ科学教育の重要性を強調された発言をされており、化学教育協議会にとって非常に心強い味方である。今や化学の悪いイメージを払拭し「化学復権のチャンス」である。筆者が高校時代に学んだ英語の教科書に“Take time by the forelock（確か幸運の神は後ろがはげているので前髪を掴めという解説だったように記憶している）”という諺が載っていた。今まさに、「前髪を掴む」ときであると思う。そこで、会員増強WGでは、このチャンスを的確に掴み、化学を志す若者が増える土壌をいかに確立すべきかを検討し、提言していくつもりである。化学教育協議会の発展は、まず教育会員の増大と機関誌の「化学と教育」の購読者を増やすことである。

会員の増大は、昨年までの様々な研究会や研修会などでの呼びかけだけでなく、未加入現職教員を直接ターゲットとした直接的な勧誘が必要である。そのためには、各支部を中心とした会員拡大運動が必要である。各支部のきめ細かく積極的な活動を大いに期待している。

化教誌の購読者を増やすことは、化教誌を知ってもらうことと化教誌を読んでもらうことである。本質的には化教誌を魅力あるものにし、現場の先生方が欲しい、読みたいと思う

ような雑誌にすることである。定番化学実験、マイクロスケール実験広場は、現場の先生方のニーズに応えるための企画である。先生方が読まれて授業で実践されることを期待している内容である。書評・推薦図書は、学校現場で生徒向けに図書館において欲しいとか、本を生徒に紹介したい時などにも利用できるなどの意見から載せている。

また今後は、化工誌にも載っている求人欄掲載を検討中である。現在、私学の小・中・高の理科教員や講師（非常勤も含む）は、知人の紹介に頼っている場合が多く、採用する側はギリギリの時期まで採用者を決定できないことも多い。また、常勤や非常勤の理科教員として働きたい人々も、老若男女を問わず多くいる。このような方々にとっても本誌が、情報誌として役立つものになることを期待している。

なお、皆さんはもうお気づきだろうか、1月号より「知っとく情報」という囲み記事を新たに載せた。化教誌が読まなくなったり、つまらなくなったりなど、先輩の編集委員や古くからの読者の方々のご意見を聞き、採用した企画である。論文誌の品位は保たなくては行けないが読まれなくては意味がない。気楽に読めて、知らなかった人にはためになるちょっとした工夫や知識をイラストと共に載せた。文字通り知って得する。知っておくと便利な特別な情報や目からウロコや初めて聞くような耳より情報など盛りだくさんの意味を込めて名付けた。中には皆さんが知っていて当たり前と思われるものもあるでしょうが、知らない若い人もたくさんいるとの観点から、担当者は執筆している。棒の、虫めがねから覗く可愛らしく輝く目のカットは、神奈川県立相模大野高校1年の井上友里さんの作品である。今後も楽しいイラスト入りの気楽に読める「知っとく情報」を掲載する予定である。

最後に、会員増強WGのネーミングはいかにもゴツゴツした響きでいただけない。構造改革、化学教育推進、化学教育発展などの意見が出たがどれも今ひとつスッキリしない。我がWGが、読者の皆さんから信頼され、認知されることも、協議会の活性化と会員増強に繋がるものである。何かよい名前があったらお知らせ頂きたい。

柄山正樹（東京女学館中学・高等学校）

化学教育協議会副議長・会員増強WG 主査

会員増強WG委員：岩藤英司（学芸大附属高）・梶本哲也（東農工大工）・片江安巳（都立竹早高）・鎌田正裕（学芸大教育）・亀谷進（都立竹台高）・神崎夏子（神奈川県江田高）・高梨賢英（慶応幼稚舎）・中臺文夫（千葉県薬台高）・中村徳幸（産総研）・丹伊田敏（学芸大附属高）・藤岡和男（都立隅田川高）・松永是（東農工大工）・渡部智博（立教新座中・高）